

は し が き

文部省は、日本の大学に学ぶ留学生の受け入れを大幅に増加させることを目的に、1983年代以降高等教育における留学生プログラムを積極的に促進してきた。高等教育における留学生プログラムは、次世代の若者がこのようなコミュニケーションの障壁を乗り越え、真の国際化を促進する上で有効な方法の一つである。このプログラムによって留学生にいかに充実した学習環境と実りある日本の生活を提供しうるかが、日本の国際化にとって重要な鍵といえる。

本プロジェクトは、異文化理解に関する専門家及び、現場で実際に留学生を指導する教官等を構成員とし、留学生及び日本人がいかに相互理解を深めていくかを研究し実践していくものである。特に留学生に対しては日本社会の理解を深めるために、教科書や書物から学ぶだけではなく、日本での生活体験を最大限に活用し、日々の具体的な経験から日本を学び、相互理解を深めるように配慮している。このような研究をもとに開発される教材は、日本人の行動や文化を理解するための文化学習モデルとして、留学生の出身文化圏を問わず役立つように作られている。教材の教師用ガイドには教室におけるこの教材の使い方なども示している。

NIMEでは、上記の教材を、内外の留学生プログラムの担当者や学生に広めるために、ホームページを開設する。我々の研究は、単にデータを収集したりソフトウェアパッケージを作成することではなく、文化の教授・学習法と長期間の文化コミュニケーションを再構築し、新しい枠組みを提供することに重点をおいている。

この報告書の作成にあたり次の方々のお力添えを頂いた。特に、研究会メンバーの一員でもある、東北大学の佐藤勢紀子助教授には、お忙しい時間をさいて座談会の編集や日本語の翻訳等あらゆる面で多大なご尽力を頂いた。ここに心からの感謝の意を表したい。また、研究協力課の専門職員の江藤竜美氏にはプロジェクトの運営にあたってご支援を頂き、事務補佐員の板場純子さん、金高由美子さん、福島貴美子さん、西脇節子さん、吉田孝代さん、藪下礼子さん、新井花恵さんには、編集のあらゆる面で煩雑な実務を手伝って頂いた。ここに深く感謝を申し上げます。最後に、メディアを利用した高等教育の国際化に深い関心を寄せ、励まし続けて下さった当センター所長、坂元昂所長に深く感謝する次第である。

平成9年11月

研究代表者

ジェーン・バクニック

Jane M. Bachnik, Ph. D.